

## まえがき

本書は、1990年代にアフリカ各地で起こったさまざまな政治経済変動と、農村社会の動向との相互関係を明らかにしようとしたものである。この時期のアフリカ各国は、構造調整と市場経済化の進行、複数政党制の導入と総選挙の実現、紛争・内戦にともなう政治的混乱、南アフリカ共和国でのアパルトヘイトの終焉など、さまざまな変動を経験した。これら国レベルでの大きな政治経済的变化は、各国の農村社会にどのような影響をもたらしているのか。また農村社会の動態は、各国の国家体制や政策変化とどのように結びつき、相互に影響を与えているのか。これを明らかにするのが、本書の目的である。この問題を明らかにするため本書では、ルワンダ、南アフリカ、ケニア、コートディボワール、ガーナ、ザンビア、エチオピア、タンザニアを事例として取り上げ、それぞれの国における政治経済変動と農村社会との相互関係を分析した。

本書は、平成11年度および12年度にアジア経済研究所で実施された「現代アフリカにおける国家、市場、農村社会」研究会、および「現代アフリカの政治経済変動と農村社会」研究会の成果である。研究会には児玉谷史朗氏（一橋大学）に専門員として参加していただき、貴重なアドバイスをいただいた。また大山修一氏（東京都立大学）には、研究会でザンビアの事例を報告していただいた。さらにアジア経済研究所のアフリカ研究グループの諸氏には、研究会での議論の深化に貢献していただいた。この場を借りて感謝申し上げたい。

2001年2月

高根 務